

講義年月日 : 2008年3月10日(月)  
講演者 : 加藤好郎氏(慶應義塾大学国際センター事務長)  
テーマ : 米国における大学と図書館の歴史と現状  
講義内容

#### 米国における大学と図書館の現状

米国の事情を認識したうえで、日本の大学、図書館で何が求められているかを考える。

#### [ 学部教育における問題点 ]

カリキュラムが職業教育に偏りすぎたり、時代遅れだったり、内容が多すぎて混乱していたりする。

学生の質の低下、教え方の拙さ、大学で教える知識が増大しすぎている。

商業や貿易はしっかりしたカリキュラムを要求し、民主的な社会は良質な教育を求めている。

社会は変化しているのに大学はその変化に対応できない。入学者の減少や他の教育機関との競合など。大学をとりまく環境は厳しい。

#### [ 歴代学長のビジョン ]

リントン・ヘンリー (ブラウン大学学長)

良い教師は図書館をフルに活用し学生にも同様に図書館を利用させる

ブランコ、ハービー (デューク大学図書館長)

館長の職務は図書館を経営効果より教育効果の観点から評価すべきである。

ハンチャー、バージル (アイオワ州立大学学長)

図書館は大学の中で一番の教育機関で、学部生も院生も教師も互いに刺激しあって、学問的発展を遂げる場所である。また学生に知的伝統を理解してもらい、学生達が将来直面するであろう現実的な問題に対する認識を深めさせる。

プレーン、ロバート (クラークソン・カレッジ学長)

図書館は学内の情報ネットワークの要であり、図書館の第一の使命は情報がどこから出たものであろうと緻密な情報アクセスができることである。しかし情報を得ることと、学ぶことは違う。その意味で図書館こそ教室であり、個別に議論し合う学びの場所でもある。

ガスキン、アラン (ウイスコンシン大学総長)

マイクロコンピューターが教員も学生も情報検索の手段として必需品となり、大学でも家庭でも情報アクセスの中心的手段になると、図書館員は情報教育の専門家として教師や学生にとって良きアドバイザーになるべきである。

バンフォーン、リチャード (ヒューストン大学学長)

正課教育は効果的に教えるたにつくられたものなので現実の複雑な問題にたいしては、より総合的な融通のきく学習が必要である。図書館の役割はそのような教育課程を超えた現実の仕事に関連した複雑な問題に対応できる側面を持っている。

デスク、ウィリアムス (プリンストン大学図書館長)

個人の蔵書が減り、組織としての資源が増大する現代では、図書館を含め資料の效果的

な利用を教えることが、学生教育の重要な側面になる。正課教育と連携してレファレンスなど図書館員のサポートが活力ある学習には欠かせない。

オニール、ロバート（バージニア大学学長）

図書館が研究の中心であると同時に大学予算に占める割合が大きくなり、大学と一般市民の架け橋だったり、他の機関との結びつきが強くなると、管理的な面からは統制がきかなかつたり、人事政策の争いの種になってくる。しかしそれは新技術の発展のカギであり、新しい教育課程構築のカギでもある。誇りの源泉であると同時に問題を生じるところである。

[ 情報過多の時代にどのように情報をとるか ]

ウォーリン、フランクリン（アラムカレッジ学長）

情報化時代はまたグローバルな相互依存の時代でもある。あらゆることが、関連し合っている現代は教育の内外の区別も、国境も専門性も超えた広い視野が重要である。学問もまた学際的にならざるをえない。

ブーステイン、ダニエル（Library of Congress 元館長）

知識は整然とし蓄積されるが、情報はランダムで雑多である。秩序立てられた知識以前の問題ある情報が流され、グレシャムの法則のように悪貨が良貨を駆逐するように情報が知識を追いやる。情報過多の時代はいたるところで情報はその意味が評価される以前に集められ、一人歩きする。

[ 情報化時代の教育理念 ]

リチャード・バンホーン（ヒューストン大学学長）

図書館である種の勉学が授業を補って行われなければならない。この経験は学生が卒業後混沌とした世の中で直面する問題を解決する訓練になる。

ピーター、デッカー（コロラド委員会高等教育前委員）

不完全なカリキュラムの断片さをとおして学生は科学や文芸はそれ自身独立した知識が統合されたものであることを理解する。

アーネストボイヤー（カーネギー財団代表）

学生は狭い領域の競争を超えて専門科目内の自由な勉学に向かわせるような学習を求めている。それは学生が専門性を通じて基本的な問いを始めるということである。

The Aspen Institute for Humanities Studies は次のように主張している。社会の大きな問題に適応できる知識の相関関係が求められている。包括的な問題を見分け幅広い解決ができるような手段をもたらす学際的な学科の統一が必要である。

[ 授業の改善 ]

クロスパトリシアの調査によれば学部学生の65パーセントは週に4時間しか図書館で過ごさず、授業内容の半分は数ヶ月で忘れてしまう。

[ 指定図書制度の問題点 ]

リストン、ヘンリーの調査によれば指定図書の4分の1は全く利用されていない。また指定図書のタイトル数が増えると利用率が下がるという。

### [Teaching with Books]

大学教育への伝統的な批判は今や一般的である。決まり切った教育方法は学生を主題よりも課程に向かわせ独立した判断と批判的な分別よりもできあがった権威を教え込むことになりがちである。学生の独立心や個人差を考慮したプログラムを約束するシステムの修正はいろいろな所で生じている。新しい教育方法は良く知られていて今更述べるまでもない。それらは学生自身に自由と責任感を負わせ、特別な宿題や講義ではなく直接学生を学科文献に向かわせる。そして教師は最終の目的としてではない、この知識を得るための助言者になることができる。

### ポールレーシー (Earlham 大学学長)

自分の経験からしても教員も院生もあまり良く図書館を知らず、レファレンスを利用するのは最終手段としか考えていない。しかし図書館には幅広い資料があり、われわれの限られた思考を超えた可能性があるのであるからもっと図書館員を良き資料専門家の教師として有効活用すべきである。

### <図書館中心学習のカリキュラムへの導入>

- ・ 第一に、すぐれた学習経験とは、現実在即している。
- ・ 第二に、すぐれた学習経験とは自発的である。
- ・ 第三に、すぐれた学習経験とはそれぞれ個々人に適したものである。
- ・ 第四に、すぐれた学習経験とは、様々な学生の学習スタイルに敏感である。
- ・ 第五に、すぐれた学習経験は、絶えず変わっている情報に適応する。
- ・ 第六に、学生は環境の脅威が少ないとき（プレッシャーがないとき）最も学び、学習発見がある。
- ・ 教員と図書館員が図書館を基本にし、学生の学習意志へ焦点をあわせ協力する時、良い学習経験のこれら 6 つの要素は学部の教育で統合できる。

### <カーネギー財団の調査報告>

- ・ 「学部学生の 4 人に 1 人は、週に一度も図書館を利用せず、65%の学生は 1 週間に 4 時間以下しか図書館を使わない」

この状況を踏まえ、これらの学部改善のための試みとして以下を行うことにした：

- ・ 教員達に研究分野について新しい情報資源とサービスを提供する。
- ・ 教員に専門分野以外に関連した情報源とサービスも提供する。
- ・ 教員及び助手に、図書館の利便性やサービスを理解させる。
- ・ 図書館が教員の研究能力を高める支援ができ、学生たちに必要であることを理解させる。
- ・ 本、雑誌、新聞とオンラインおよびメディア資源の様々な使用に基づく学習経験を展開するには図書館員と教員の協力が必要。
- ・ 情報管理技術の運営を効果的に進め構築するには教職員の連携、体系化が必要。

< William H. Harvey ( Earlham 大学生物学教授 ) >

我々の熱意は広まり、そして、我々の熱意が成果をあげたように見える。なぜならば、学生は図書館を使うように動機づけられるだけでなく、それはもちろん全ての鍵であるが、私が同じ教育水準では決して得られなかった技術と情熱をもって彼らがそうするのである。それは、教職員もまた、そのプロセスからたくさん学んでいることは言うまでもない。これらの理由から、私は課程関連の図書館指導の方が課程と切り離された別の図書館指導コースよりは良いと思う。また、図書館技術が学習プロセスの基本的な構成要素またはカリキュラムに盛り込まれれば、学生が図書館をさらによく使う図書館利用の動機付けとなると思う。

< 図書館蔵書の変化 >

- ・ 蔵書形成管理は、第2次世界大戦以後の基本的な業務
- ・ ビブリオグラファーや主題スペシャリストが選書
- ・ 主題スペシャリストが独立部門編成
- ・ 図書館員と教員の間で共有
- ・ 教員個々の研究関心だけの計画性のない蔵書形成は失敗する。
- ・ 現在では、伝統的メディア資料と非伝統的メディア資料の割合は50%

< Shank, Russell >

人々は、より情報が含まれる媒体と利用の方へ置かれている。  
利用者は、新しい情報、良い学習経験で作業する方法を学ぶことに時間を費やす。  
図書館は、したがって、図書館使用に関して指導のしっかりした計画がなければならない。これは、司書の教育能力の強化を必要としており、そして、司書の仕事としてこれまで以上により中心となる仕事である。新しい開発計画にとっては財政状況が厳しくなっている時だが、司書や管理者の関与が必要である。

< Is the library doing a good job of collection development ? >

図書館は、蔵書構築のために良い仕事をしているか？

1. 図書館員または教員は、資料費の配分を統制しているか？
2. 図書館の中の誰が蔵書構築を調整することに対して責任を持っているのか？  
その人物は、キャンパス内やそれ以外で蔵書構築委員会や研究活動に積極的に参加している有能な管理者であるか？（年毎の人員評価は、これらの質問への回答に協力しなければならない）
3. 資料を選書する過程で教員の意見を聞き、教員が関与しているか？
4. 図書館は資料収集方針を文書化したものがあるか？  
それは、大学がかかげる教育方針と一致し大学の優先課題を反映している？  
計画は、資料の廃棄（除籍）基準や、収集するための評価基準を設けているか？  
そのプランは適切に調節されているか？
5. 他の図書館と協力して資料収集計画を遂行しているか？
6. 図書館は、“見計らい図書制度”を導入しているか？（これらの計画の下で、業者は

図書館が購入しそうなものを直接図書館に送る。)

収集方針の変化にともなう選書の際、業者による“見計らい”は役に立つ。

7. 教学研究上の計画や資料収集に資金提供を越える問題が確認されたら、どのように、図書館はこれらの問題に対処しているか？

<ショウ、ウォード(コロラド大学図書館長): 図書館におけるコンピュータ技術>  
データファイルがありすぎるが、ほとんどのファイルがあまり使われない。

<ガスキン、アラン(ウイスコンシン大学学長): 図書館を情報処理センターに>

1. 図書館員は、利用者志向であり、教員や学生の情報活用に応じる専門職である。
2. 図書館員は、情報検索活動と変化する技術に対応できる。
3. 図書館員は情報スペシャリストである。そして、情報獲得、普及と活用のために訓練を受けた専門職。
4. 図書館は、組織的方向で多数のユーザーの必要な情報を取り扱うために整然と組織される唯一の機関である。図書館員の能力は新しい情報技術を修得して、スタッフ・ニーズを理解する際に重要である。
5. 図書館員は、変化する大学の優先課題に敏感な傾向がある。

<ファンフォーン、リチャード(ヒューストン大学学長): 情報センターの特性>

情報センターの主要な特徴

- ・24時間のアクセス
- ・無制限で費用効果がよい保管
- ・どこからでも遠いデータへの直接のアクセスが可能
- ・ファイルが簡単に機械化しやすい

図書館の主要な特徴は、次の通り

- ・方針として利用者に親切であること
- ・非常に体系化されたファイルとコレクションがある
- ・無料アクセス(著作権の範囲の中で)
- ・高いレベルの専門知識がある

<情報資源の管理職とは>

- ・情報資源とサービスのより効果的利用法について学内で他の人を教育するのを支援しなさい。
- ・より良く効率的な貸出システムを開発する際に、リーダーシップを発揮しなさい。
- ・人が情報を必要とする時に、それを使うことができる形で提供できるよう役立ちなさい。
- ・最終目的としではなく道具としての技術の未来像を伝えなさい。
- ・大学全体として情報サービスを主導して、教学プログラムを効果的に連携して支援しなさい

< 図書館長評価表 >

館長に対するあなたの評価を記述してください。

1. どのくらい長く館長といっしょに仕事をしていますか？
2. あなたと大学や図書館長や、例えば教員、スタッフ、学生、友人、管理者、卒業生、州機関役員などとの提携・協力関係はどのようなものですか？
3. あなたと図書館長との仕事上の関係の範囲を記述してください。

< Performance Evaluation > example

パフォーマンス評価

1. 指導者としてどのような手本を示しているか
  - (1)自分の仕事基準を高く置いてそれを示しているか
  - (2)積極的に大学の使命を支援しているか
  - (3)図書館任務と目的を明瞭に示しているか
  - (4)サービスと運営目的の達成を奨励しているか
  - (5)効果的に大学全体や教員に対して働きかけているか
  - (6) 図書館が大学全体の中心となり、その活動、問題を知らせ大学全体として共有しているか
  - (7)効果的に、大学全体の活動を紹介しているか
  - (8) 外部からの支持を集めているか
2. 管理者としてどのような運営能力を発揮しているか
  - (1)図書館スタッフや教職員に図書館の活動をたえず説明しているか
  - (2)図書館スタッフと教員から助言を求めているか
  - (3) 問題を適切に解決しているか
  - (4)管理者は適切に権限を委任されているか
  - (5) 資料に精通した担当者どうしの分担と協力はうまくいっているか
3. 管理者としての人事管理能力はどうか
  - (1)スタッフの能力を育成し奨励しているか
  - (2)職員の能力とそれぞれの手順を支え任せているか
  - (3)意欲のある行動をサポートしているか
  - (4)公正に判断し人事を行っているか
- 4.管理者として財政管理はどのようにしているか
  - (1) 図書館予算を十分に確保しているか
  - (2) 予算配分は適切か
- 5.図書館の専門職としての能力があるか
  - (1) 図書館員として図書館界の問題、動向と情勢を理解しているか
  - (2)学術的著作や出版、あるいは専門職の発展に対するサービスに貢献しているか

#### < 図書館長の選考基準 >

図書館が優先的に大学の方針に沿い、積極的に関与するために、以下の基準を将来の管理者に提案する：

- ・ 確かな経営管理能力があるか
- ・ ネットワークや財源分担への明確な取り組みはあるか
- ・ サービスに関与していることを示しているか
- ・ 人間関係、コミュニケーションスキルがある
- ・ 2つの修士号または博士号（望ましくは）を持っているか
- ・ 専門職としての革新と創造力を示せるか

説得力のある提示は図書館員の職務を越えて機能させることができる

#### < 研究者としての図書館員の身分 >

図書館員のあるべき姿

正式な教員としての地位ではなくとも、ある種の教員あるいは研究者としての図書館員の地位を持っているか

- ・ 私的機関ではなく州立大学ならば専任の身分を持ちなさい。
- ・ 同僚の評価を得なさい。
- ・ 仕事の実績で評価されなさい。
- ・ 1週につき35～40時間、1年につき12ヵ月、働きなさい。
- ・ 少しでも研究のための時間を過ごしなさい。
- ・ 1つでも論文（論説）を発表しなさい。
- ・ 教員の地位が図書館員のために最高の選択肢であるかどうか疑いなさい

「図書館員の一般的な不満は、研究のための時間不足である」

#### < ウォーリン、フランクリンW >

図書館は教員に良質な教育を支援する費用対効果がよい手段を提供することができ、柔軟に厳しい大学経営予算に対応することができる。大学の教員を一人採用するより、教育に積極的な図書館員を一人採用する方が教育効果が高い。この費用対効果は将来的に学生のニーズが変わり、学科組織の改組などがあった場合は、図書館員の方がそのような変動する学生要求に対応した指導が適切かつ柔軟にできる。